2026 年 10 月 21 日
一般社団法人 日本船主協会

当協会長澤会長、IMO および ICS を訪問
～ 国際海運における航行安全と地球温暖化対策について意見交換 ～

当協会の長澤会長は、10 月 6 日、英国ロンドンにおいて IMO（国際海事機関）のシュヴァリエ海上安全部長およびバティスタ海洋環境部ヘッド、ならびに ICS（国際海運会議所）のカザコス事務局長と相次いで面談しました。長澤会長の ICS 訪問は昨年 7 月以来 2 回目となります。


左からシュヴァリエ海上安全部長、
長澤会長、ハグマン欧州地区代表

IMO 幹部との面談では、チョークポイントにおける航行安全の確保と、GHG（温室効果ガス）排出削減に向けたネットゼロ枠組みの今後の見通しについて意見交換を行いました。

ホルムズ海峡の封鎖はアジア地域に特に大きな影響を及ぼしており、ASA（アジア船主協会）議長も務める長澤会長は、航行の自由と安全確保の重要性を強く訴えました。また、ホルムズ海峡をはじめとする主要なチョークポイントにおいて、長年にわたり確立されてきた基本原則を維持するための方策を検討していく考えを示しました。これに対し IMO 側は、外交的解決と船員保護の重要性を強調するとともに、海運業界による積極的な取り組みを歓迎しました。

脱炭素化への対応については、日本が提案する「直接拠出制度」が公平な競争条件の確保に資するものとして高い関心を集めました。また、11 月末からの MEPC85（第 85 回海洋環境保護委員会）での合意形成への期待が示されたほか、アンモニア燃料タグボート「魁」などに代表される先行的な投資・取り組みが高く評価されました。


左から長澤会長、カザコス事務局長、
ハグマン欧州地区代表

一方、ICS のカザコス事務局長との面談では、国際法に基づく自由航行の原則を堅持しつつ、実務的な対応を検討していく方針で一致しました。また、脱炭素化に関しては、日本提案が各国間の橋渡し役となることへの期待が示されるとともに、IMO の国際規則策定機能の維持および統一規則の早期確立に向け、ICS と当協会が引き続き協力していくことを再確認しました。

当協会は、IMO および ICS との緊密な連携を通じて、国際海運の持続可能な発展と安全航行の確保に引き続き貢献してまいります。

以上